

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 2 5	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Prevalence and identification of alcohol use disorders among severe mental illness inpatients in Taiwan. 重度精神障害を有する台湾の入院患者におけるアルコール使用障害の罹患率とその同定	
執筆者	
Huang MC, Yu CH, Chen CT, Chen CC, Shen WW, Chen CH.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Psychiatry Clin Neurosci. 2009 Feb;63(1):94-100.	
キーワード	
アルコール使用障害、同定、罹患率、重度精神障害	
要 旨	
<p>目的： 精神疾患患者においてアルコール使用障害 (AUD : alcohol use disorders) の罹患率が高いことが報告されているにも関わらずその同定率は低い。本研究の狙いは、台湾にある精神科病院に急性精神疾患で入院した患者における AUD 罹患率とその同定を検討することである。</p> <p>方法： 症例同定にあつたては二相性方策を採った。第一相スクリーニングとしてアルコール使用障害同定試験 (AUDIT : Alcohol Use Disorders Identification Test) を用い、第二相の診断確定手段として DSM-IV-TR の構造化臨床面接を用いた。症例同定の定義は退院時のカルテに AUD 診断の記載があることとした。</p> <p>結果： 400 例のうち 42 例がスクリーン試験で陽性であり、358 例が陰性であった。陽性者全例とスクリーン陰性者のうちの 35 例が第二相の面接を受けた。生涯加重罹患率は以下の通りであった：アルコール依存 8.3% (95%信頼区間 [95%CI] 4.6-11.9%)、アルコール乱用 1.5% (95%CI 0.2-2.8%)、AUD 9.8% (95%CI 5.7-13.8%)。医療スタッフによる全体の同定率は 28.2% であった (アルコール乱用は 0%、アルコール依存は 33.3%)。気分障害の患者は AUD の同定がされにくかった。</p> <p>結論： 重篤な精神障害を持つ入院患者における AUD 罹患率は本研究施設 (台湾の施設 Taipei City Psychiatric Center) ではまれではなかったが、医療スタッフから見落とされていることも多かった。高危険患者を見つけ、適切な介入を行い治療効果を高めるためには、スクリーニングとして妥当性が示されている AUDIT などの質問票を用いることが重要である。</p>	